



第 401 号 平成 23 年 12 月 1 日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町 601-1 こどもみらい館 2 階

T E L (075) 256-0351

F A X (075) 241-3568

発行人 奥村正治

第61回全国学校保健研究大会と第42回全国学校保健・学校医大会

会 長 奥 村 正 治

年に一度、国体ではないが学校保健に関係する者の集いが都道府県単位で行なわれています。本年は静岡県が当番で表題の会が行なわれました。全体の様子をお知らせいたします。10月27日(木)・28日(金)に第61回全国学校保健研究大会が、10月29日(土)に第42回全国学校保健・学校医大会が行われました。又、本年は特別の年として10月28日(金)に文部科学省の主催で放射線に関する研修会も臨時に開催されました。

第61回全国学校保健研究大会は、文部科学省、静岡県教育委員会等が中心になり開催されました。教育界が中心になった大会とも言えます。二日間に渡り、一日目は全体会、二日目は課題別研究協議会となり分科会形式で行なわれました。

全体会は開会式と表彰式と講演会です。本年文部科学大臣表彰を受けられた方内、京都市分は、学校薬剤師の中林雅子先生と元養護教諭元指導主事の服部眞弓先生が受賞なさいました。おめでとうございます。この受賞は、学校保健関係(学校医・学校歯科医・学校薬剤師・校長・保健主事・養護教諭)の個人の方と(学校保健行政・学校保健「学校」・学校保健「団体」)の団体の方とに分れます。又、学校安全(個人・団体)や、学校安全ボランティアのグループの方々も対象になります。今回京都府からは学校医、学校歯科医、学校安全「学校」、学校安全ボランティアの方々も受賞されました。

講演会は、浜松医科大学児童青年期精神医学講座特任教授の杉山登志郎先生の「学校現場における発達障害を持つ子どもたちへの対応」と題しての話でありました。中でも発達障害はなぜ増えているか？

晩婚化→出産年齢の後退化→低出生体重児の増加→発達凸凹の増加などの話しが、私は気に入りました。知的凸凹はマイナスとは限らない(優れた功績を有する人は少なくない)。発達凸凹+適応障害=発達障害。これらが先生が強調された点の様に思いました。

翌日の課題別研究協議会は、10のセッションに分れての会である。①学校経営と組織活動②保健学習③保健指導④心の健康⑤性に関する指導・エイズ教育⑥保健管理⑦歯・口の健康づくり⑧学校保健衛生⑨安全教育⑩喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の10課題別でした。私は⑥保健管理一生涯を通じて健康の保持増進を目指す疾病予防と保健管理の進め方一の会場へ出ました。京都からは⑩の課題に府立乙訓高等学校の三村哲也先生が発表されました。

第42回全国学校保健・学校医大会は主催は日本医師会であり文部科学省をはなれ、医の部門だけの会となります。午前中分科会、午後全体会で開催された。メインテーマを「『学校医』我々に出来ること—子ども達の健やかな身体とゆたかなこころを育むために—」と題して、分科会①「心臓検診・腎臓検診」②「脊柱検診・運動器検診・生活習慣病検診」③「こころ・精神保健・アレルギー疾患・性教育・感染症」④耳鼻咽喉科⑤眼科の分科会でした。⑤眼科の分科会で、眼科学校医会が当こどもみらい館で行なっておられる「色覚相談室」の話題を新井真理先生より発題していただきました。「京都における先天色覚異常についての取り組み」と題して。

午後は開会式の後シンポジウム「学校における検診システムの現状と課題」として基調講演と三人に

よるシンポジストの話しがあった。引き続き特別講演は、静岡理工科大学理工学部物質生命科学科教授の志村史夫先生による「21世紀の幸福論—ITは人を幸せにするか—」という話しであったが、次から次へと声による音声が始めから終わりまで機関銃の様に約一時間退屈する暇もなく、アッという間に終わりました。結論は、不幸とは言えないが幸せは無いと・・・。

第42回全国学校保健・学校医大会の詳細は出席者の方々の報告をお読み下さい。学校医大会と同じ様な会は、学校歯科医協議会・学校薬剤師大会・学校保健会中央大会が、平行して行われております。

来年は11月10日(土)熊本県で学校医大会は開催される予定です。執行部の先生以外の会員の先生方も、ご出席希望の方は御申し出下さい。御一緒したいと思います。

主催文部科学省の放射線に関する研修会

福西小学校医 奥村正治

本年は、第61回全国学校保健研究大会の終わったあと午後4時より、大震災による福島第一原発事故による放射性物質による不安を少しでも解消する意味も含め、基礎的な事項について研修会が文部科学省主催で急遽開催された。

講師は、①「放射線と健康への影響」独立行政法人放射線医学総合研究所 理事 明石真言先生、②「学校で放射線を教えるためには」独立行政法人放射線医学総合研究所放射線防護研究センター規制科学研究プログラムリーダー 米原英典先生のお話がありました。

①においては、基本的な話しをしていただき、外部被ばく、内部被ばくの様子、問題等々を中心に、線量の計算例も例示していただき、具体的な問題

にもふれられたが、単位経口摂取量当りの線量(mSv/Bg)の値が、成人、幼児、乳児によって変わるので、低年齢者ほど気をつける様にという結果になる様である。

②においては、①よりももっと表題から具体的な話題となるだろうと想像していた。「学校で教えるには」わかりやすくが基本になるので、期待していたが①よりも専門すぎて理解に苦しんだ。話しの最後の方で、近々、文部科学省より、放射線による副読本が児童生徒用とそれぞれ教師用解説書が発行されるという新しい話題を聞いた。学校、教育委員会に印刷が出来次第送付される様である。一度見てみたいものである。

第42回全国学校保健・学校医大会 第2分科会に参加して

今熊野小学校医 長村吉朗

10月29日に静岡県静岡市で開催されました第42回全国学校保健・学校医大会の第2分科会の概要を報告いたします。

1. 秋田県における脊柱側彎症学校検診での発見率
秋田県医師会 三沢晶子
2. 奈良市における脊柱検診20年間の報告
—モアレ検査を一次検診に活用して—
奈良県医師会 門野文彦
3. 第二報 シルエット検診の新たな展開(広島方式)
広島県医師会 泉 恭博
4. 学校保健における運動器検診と健康教育について
埼玉県医師会 柴田輝明

5. 静岡県における運動器検診モデル事業の実施結果について
静岡県医師会 高橋正哲
6. 関係機関と協働による小・中学生のメタボ対策に取り組んで
岩手県医師会 山口淑子
7. 学童追跡調査からみた小中高生時検査の生活習慣病予防における意義
広島県医師会 吉原正治
8. 愛知県学童期生活習慣病対策事業について
愛知県医師会 山中寛紀
9. 小学4年時と中学2年時の脂質検査結果の検討
岐阜県医師会 加藤義弘
10. 小児版食行動質問表の作成と分析
兵庫県医師会 毎原敏郎

前3題は側撃検診に関するもので、1.2はモアレを使用することで被爆のない正確な検診が行いえると言うものでしたが、いかんせんモアレの検査機器が製造中止になっており今後の拡大展開は望めません。それに対しデジカメにより前屈像を段階的に撮影し解析を行うというのが第3題ですが、検診時間等解決すべき点は多くあるように感じました。4.

5題は運動器検診に関してですが、しゃがみ込み等が上手く行えない児童の現状が報告されました。6題以降は児童生徒にたいするメタボ対策の取り組みが報告されておりますが。以前からの肥満児対策がメタボと名前を変えただけじゃないかとの思いを持ちました。何か文句ばかり言っているようですが、そういう世代になったのだと思いお許し下さい。

第3分科会：こころ・精神保健・アレルギー性疾患・性教育・感染症

常任理事 杉本英造

1. 自閉症を抱える幼児の療育と就学支援（埼玉）
2. 教師が気になる生徒へのメンタルヘルス対応（三重）
3. 被災地における子どもの心支援活動（宮城）
4. 姫路市の小学校におけるアレルギー対策（兵庫）
5. 静岡県におけるアレルギー疾患用学校生活管理指導表の運用について（静岡）
6. 御殿場市・小山町 学校専門相談医制度の活用について（静岡）
7. 地域医師会における学校における喫煙防止策（和歌山）
8. 10代女子の携帯メール相談の現状（岡山）
9. 大阪における性教育の実態（大阪）
10. 岐阜市性教育研修事業の現状（岐阜）

上記、10演題が発表されました。このうち演題1・3・8をご紹介します。

演題1：

自閉症治療は早期介入が望まれますが、ABA(Applied Behavior Analysis：応用行動分析)を2～4歳までに始めることにより動作模倣や音声コミュニケーションの獲得により、従来なら特別支援が必要であった子ども達を通常学級入学可能に出来、効果があるとのこと。

演題3：

8月に学校医会：精神衛生研究会で「東日本震災被災のこどものこころのケア研修会」を開催したばかりでしたので、この演題に興味がありました。宮城県「NPOここねっと発達支援センター」により「緊急子どもサポートチーム」を編成され、子ども達のトラウマから回復していくステージを「不安

感から安定感」→「安定感から安心感」→「安心感から期待感」という3つのプロセスを順に歩めるよう活動されました。そのためにこども達との関わりで、「否定しない」：やってみたいという衝動を否定するとトラウマ体験を自分で吟味し昇華するためのこころのエネルギーを削ぐおそれがある。「強制しない」：こども達の欲求や衝動を逆に否定するおそれがある。「丁寧に関わる」：名前を呼び捨てにせず、(ありがとう・ごめんなさい)をきちんと伝えることにより、こどもを一人のいのちを持った大切な存在として尊重する。この3原則を遵守し、1～2週間黙々とお絵かき・カード遊びをさせていると、次第に「居場所」に対する「安定感・安心感」をもち、外へ向かうエネルギーが蓄えられ、仲間意識が芽生えます。この時期から「欲しいものリスト」を書くプログラムに入り、可能なものは支援物資の中に入れ、一人一人に丁寧に手渡すとこども達はとても喜んだとのこと。そうするうち、何かをきっかけに「津波ごっこ」が発生し、自らの理解不能なすさまじい体験を乗り越えるため、つながりあった仲間と安心・安全な場所でトラウマ・ケアのひとつがみられたとのこと。

震災時には、保護者自身がストレスを抱え、大人もトラウマに押しつぶされ、パニックとなり、こどもにとって本来、守ってくれる「家庭」が崩壊してしまうので、こころのケアは本当に困難を極めるとのこと、不安→不満→不信→絶望に向かわせないよう努力されている活動に感銘しました。

演題8：

岡山の婦人科医師からの発表で年間80校、性教育

を行い、1日100通ほど携帯メール相談の質問に答えておられるパワーに圧倒されました。「デートDV」という言葉をはじめて知りました。彼と彼女との関係が対等でなくなると、一方が自分の都合に合わせた無理を言ってもそれがお互いの間では通用してしまう関係で、この関係を維持するため様々な暴力に発展するとのこと。こども達が正しい知識を持ち行動ができるようにいつでも相談できる場所と

仕組みが必要であることを強調されました。しかし、学会中も携帯メールで返答しておられ、先生ご自身のメンタルヘルスをどのようにしてコントロールしておられるのか聞きたかったです。

いずれの演題も示唆に富むものでした。今回の大会のスローガンである「『学校医』我々にできること」をもう一度こころに問い明日からの学校医業務に役立てたいと考えています。

第42回全国学校保健・学校医大会に出席して

京都府耳鼻咽喉科専門医会学校保健担当理事 鈴木 由一

耳鼻咽喉科の第4分科会には京都からは鈴木が参加して参りました。この分科会には、全国から約80名ほどの参加がありました。

下記のような合計9題の演題の発表があり、いずれも発表後に活発な質疑応答がありました。また全ての演題の発表後にディスカッションの時間が設けられていましたがこれも予定の時間をオーバーするほどでした。

各演題を通して問題になったと思われることは、病名の判定基準の統一性がどこまで図れるか、事後の受診率をいかに上げるか、健診時のプライバシーに関する問題等など。

従来から言われていることではあるが今後も課題となりそうな健診に関する現状と問題点につき議論されました。

第4分科会 「耳鼻咽喉科」

座長 日本耳鼻咽喉科学会静岡県地方部長 峯田周幸

1. アレルギー性鼻炎（AR）と学校健診疾患との係り（小学校6年生の健診より）

奈良県医師会 川本浩康

2. 静岡県における学校健診での聴力検査の実態と今後の課題 静岡県医師会 植田 宏

3. 学童嘔声調査 静岡県医師会 牧野克己

4. 学校健診における言語異常健診の検討
徳島県医師会 宇高二良

座長 日本耳鼻咽喉科学会静岡県地方部会学校保健
委員会委員長 鳥居智子

5. 熊本県における耳鼻咽喉科学校健診の現状
熊本県医師会 定永恭明

6. 新潟市における小学校の耳鼻咽喉科健診の結果と課題（昭和54年～平成20年）

新潟県医師会 大滝 一

7. 大阪府の政令指定都市における学校健診の現状
大阪府医師会 武市直範

8. 小中学校における定期健康診断の現状と問題点
北海道医師会 橋本紘治

9. 耳鼻咽喉科定期健康診断の諸問題
神奈川県医師会 朝比奈紀彦

ディスカッション テーマ「学校健診の現状と諸問題」

第42回全国学校保健・学校医大会特別講演を聴いて

今熊野小学校医 長村 吉朗

10月29日に静岡県静岡市で開催されました第42回全国学校保健・学校医大会の特別講演の概要を報告いたします。

「21世紀の幸福論－ITは人を幸せにするか－」

静岡理工科大学理工学部物質生命科学科 教授 志村史夫先生による講演でしたが、おもしろかった！この僕が1時間の間一度も意識を失わなかったのですから。しかし残念なことに、おもしろすぎてほと

んど覚えていません。わずかに覚えているところを、断片だけを報告することをお許し下さい。

先生は昭和23年東京生まれで、トランジスタからIC、LSIと続く半導体の大進化の時期にこの分野の第一人者として活躍されました。しかし今から15年ほど前にその限界を感じられたのか、その行き着く先が見えたからか、その仕事から離れ現在の職についておられます。

現在のIT革命と言われる時代に、その情報の洪水の中で人はいかに生きていくのかと言う点につき、先生の考えには考えさせられるものがありました。

先生の考えでは $\text{幸福感} = \text{財産} / \text{欲望}$ の数式で表されると言うのが結論でしょう。つまり幸福感が大きくなるためには財産（これはお金だとか物だとかだけでなく、知識だとか物質でないのものも含まれます。というか先生の考えではこれの方がメイン）が大きくなるか、欲望が小さくなるかであるが、IT(情報)は情報の洪水により個人の欲望を肥大させることに他ならないと言う考え方で非常に感銘を受けました。又違った角度からの話も聞く機会があれば良いなと思った次第です。

第42回全国学校保健・学校医大会 シンポジウムに参加して

テーマ「学校における検診システムの現状と課題」

専務理事 井本 雅美

従来から学校検診は、栄養状態、結核、心臓、尿などの内科検診や脊柱検診、および耳鼻科、眼科、歯科検診などを中心に行われているが、近年肥満傾向小児の増加に伴い、子どもの生活習慣病予防に向けての対応の必要性が提唱されるようになってきた。

このシンポジウムでは、基調講演として小児のメタボリックシンドロームに関する研究事業が取り上げられた。それによると、日本人小児のためのメタボリックシンドローム診断基準（6歳～15歳）としては成人の診断基準項目に準じたものがあるが、学校や家庭においては腹囲の値（腹囲が中学生で80cm以上、小学生で75cm以上を赤信号、腹囲 / 身長比が0.5を超える場合は黄信号）が健康指標として簡便で有用であるとしている。

成人の肥満・メタボリックシンドロームのかなりの部分が小児期の肥満ないしメタボリックシンドロームから生じることや、また、成人期に発症する心筋梗塞や脳梗塞などが小児期の過体重と相関していることより、小児の肥満やメタボリックシンドロームの正しい理解が必要であり、そのためには学校・家庭での生活習慣における介入に加え、学校医の果たす役割（医学的対応）は重要であると考えられる。

基調講演に続き、静岡県からの3人のシンポジス

トにより(1)心臓検診の再調査の重要性、(2)蛋白尿に重点をおいた検尿システム構築の意義、(3)脊柱側弯症検診の現状と問題点 についてそれぞれ発表があった。

この中で、脊椎側弯症検診は学校保健安全法で検診が義務付けられている唯一の運動器疾患であるが、定期健康診断における内科検診の限られた時間の中で、十分な検診ができていないことを実感として持っているだけに興味深い内容であった。静岡県における疫学調査では、一次検診陽性者ゼロの中学校が多数存在しており（全体としては34.3%だがある地域では70%）、検診方法の再確認（上半身裸で視診と前屈テストを行うこと）の必要性を、また保護者に対しても視診のやり方について理解してもらうことの重要性について話された。

今回のシンポジウムを通して、検診を意義あるものとするための取り組みの重要性を確認すると共に、現在行っている健康診断の項目や方法が、本当に子ども達の健康管理や健康教育に役立っているのかどうか、改めて考えるきっかけとなった。

新任校医挨拶



西川 昌之
(市原野小学校)

平成23年度より左京区の市原野小学校の校医に就任しました。

昭和60年京都府立医科大学卒業後、同大学放射線科、国立病院九州がんセンター、高雄病院を経て、2000年6月より岩倉にて内科・アレルギー科で開業しております。

校医としての業務は、まだまだ勉強中ですが、先輩諸先生方のご指導をよろしくお願いいたします。

第7回 常任理事会

平成23年12月3日
於 事務局

出席者 奥村会長、林副会長、杉本常任理事、佐野眼科学校医会副会長、鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 腎臓相談 11/8
2. 精神衛生研究会 11/10 8名参加
3. 色覚相談 11/15, 11/22, 11/29 各2名
4. 第60回近畿医師会連合学校医研究協議会総会 11/20 滋賀県(次年度は奈良県主催)
5. 平成23年度京都市学校保健会表彰式並びに研究発表会 11/26
6. 平成23年度学校保健関係者表彰祝賀会・懇親会 11/26
7. その他 就学時健康診断視力検査に活用する視力表を各学校へ配布

<協議事項>

1. 第26回京都市小学校「大文字駅伝」大会について 2/12
2. 「大文字駅伝」事前検診について 12/24, 1/7 心臓検診と整形外科検診

3. 平成24年度京都市学校医会総会 講師について 会長に一任
4. 校医・小児科医感染症講習会 講師について 予防接種の話題になるか
5. MR集団接種について 京都市保健福祉局に参加職員の人数や経費についての問い合わせ
6. ワンポイント相談について 今年度で終了
7. インフルエンザについて 教職員が感染した時は、学校医へ連絡がくることになった
8. 教職員時間外勤務について
9. 仮決算について
10. パソコンについて 買い替え
11. その他

<関連学会・各種協議>

1. 平成23年度京都市小学生駅伝競走記録会 12/4 奥村、鈴木 出務
2. 精神衛生研究会 12/8
3. 色覚相談 12/13, 12/20
4. 平成24年京都府歯科医師会新年互礼会 1/5 奥村出席
5. 第8回常任理事会兼新年会 1/14 5:30~ 於：ラ・フルール